

ひびきあい

シニアアンサンブルのための楽器知識

〔19〕リコーダー

シェークスピアの「ハムレット」第3幕の2場にこんな会話があります。

- ハムレット「お前はこの笛が演奏できるか？」

- 友達「出来ません」

- ハムレット「嘘をつくくらい簡単だよ。指穴を親指と指で押さえる。そして口から息を吹きむんだ。そうすれば美しい音が出てくる」

嘘をつくことが人格的に難しい方も多数いらっしゃいますが、発音は空気が歌口に入れば音が出るので簡単です。

小学校の中学年から長年、教具として扱われてきました。しかし、本格的に演奏に取り組むと奥が深く、やり甲斐もあり独特な美しさを味わうことの出来る素晴らしい楽器です。

歌口に息を吹きもみ空気の渦(カルマン渦)は発生させる楽器はとても古く、ピラミッドの絵などに残っていますから古代文明から現代まで形を変えて伝わってきています。

今の形に落ち着いたのは16世紀から18世紀にかけてのルネッサンスです。学校のリコーダーはほとんどソプラノ中心ですが、リコーダーにはクライネソプラニーノ、ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バス、大バス、コントラバスの8種類の高さ大きさの種類があり、サクソフォーンの7種、バイオリン族の5種よりも豊富になっています。



ルネッサンスは多声音楽が盛んでした。まずリコーダーでアンサンブルをして、その後同じパートを歌唱する家庭(サロン)音楽が中心でした。

その後バロック期に入ると器楽が盛んになりアルトリコーダーが木管楽器の中心を担います。

ただし、バロック期後半になるとバイオリン族が完成され、それに対応して大きな音が出る音域の広い横笛(フラウトトラベルソ)にその座を譲るようになります。

20世紀になってドイツの作曲家オルフがリコーダーの素晴らしさをアピールし教育楽器として優れていることを強調しました。ドイツのわらべ歌、民謡などを使って教材化しました。

リコーダーが楽器として優れている点はたくさんあります。

①息の長さフレーズの長さが一致できる。

リコーダー演奏に使う息は歌唱の時と同じような量で、歌うように演奏できる。

②作音楽器である。

ハムレットは空気が入れば音がたやすく出ると言いましたが同じ運指でも息圧、息のスピードで音程が微妙に変わります。(半音近く)したがって良く聴き合って意識をして演奏すれば8人くらいまでなら純正調の響きで1曲仕上げる事が出来ます。まさにリコーダーならではの素晴らしさです。リコーダーはビブラートが掛けにくい楽器ですが、それが大きな長所になります。

③音量が適当である。

広い音楽会場ではモダンフルートには一步譲るもののサロンや家庭内ではとても美しく響きます。生涯楽器にふさわしい特徴です。

④価格が安い。

勿論、木管楽器ですから本来は木で出来ています。それも黒檀、ローズウッド、キングウッド、メイプルなどさまざまです。価格もそれぞれですが全ての木管楽器の中で一番安価といえるでしょう。そして日本では4桁の価格で世界でもトップクラスの合成樹脂のリコーダーが手に入ります。筆者の知り合いのドイツ人のリコーダー奏者が来日の折、街の楽器屋から20本近く買いだめをして帰っていきました。オーストリア、ザルツブルクのモーツアルトの生家を訪ねた折、隣の楽器屋で日本製の合成樹脂のリコーダーが並んでいるのを見て嬉しくなりました。

◎ザルツブルクの話から余談。

ザルツブルク出身の有名音楽家・サウンドオブミュージックの主人公トラップ一家。愛と平和の願いにあふれたこの物語を皆さんはよくご存じでしょう。映画ではアルプスを越えるところで終わっていますが、その後一家はアメリカに渡ります。バスを買い一家で演奏旅行をして生活します。その時の演奏がルネッサンスのスタイル。リコーダーで旋律を吹きその後同じ曲を合唱する、という形でした。アメリカ人はその純粋な響きをとても喜んだそうです。

その時に良く歌われたのが「きよしこの夜」。そして「リコーダー」はアメリカ径由で日本の学校に入ったのです。リコーダーは愛と平和の使者なのです。

(注) 学校では教えやすいドイツ式の運指が中心ですが本来ルネッサンス時代に使われたイギリス式(バロック式)運指の方が者や機能が優れていると思います。

(原案 全シ連 岡村斉能 補筆 葛飾/江東 五十嵐淳)